

神戸リサーチパークの誘致施設計画について A PLAN OF ATTRACTIVE FACILITIES IN KOBE RESEARCH PARK

山室 博富¹⁾、大西 好和²⁾、松村 茂樹³⁾
浅井 活太⁴⁾、鎌田 弘⁵⁾、青木 利博⁶⁾

By Hiroyoshi Yamamuro, Yoshikazu Ohnishi, Shigeki Matsumura
Katta Asai, Hiromu Kamada, Toshihiro Aoki

Kobe Research Park is now being developed as one of new towns in the "Kobe Sanda International Garden City". It is intended to be a composite multi-function town provided with various kind of facilities for living, working, relaxation, study and enjoying international exchange.

This paper is concerned with a plan of attractive facilities in Kobe Research Park that consists of three districts.

It is planned to the zone for the various facilities with four concepts such as Exhibition, Academy, Science and Distribution.

1. はじめに

近年の土地の異常な高騰は、人々を郊外の住宅団地へと駆りたてているが、昨今のニュータウンは単に住むという単一の機能だけではなく、様々な都市機能を備えた一つの街として、造られつつある。

今回紹介する「神戸リサーチパーク」は、「神戸三田」国際公園都市の一環として開発が進められており、恵まれた自然環境の中「住む」「働く」「学

ぶ」「憩う」「交流する」という多様な都市機能を備えた未来都市としての街づくりを目指している。

この居住機能以外の都市機能のための用地を誘致施設用地として位置付け、全体216haを確保しており、どの地区にどのような都市機能を配置していくかを広域的な観点並びに地区特性を踏まえて、誘致施設計画としてとりまとめたものである。

2. “神戸三田”国際公園都市の概要

“神戸三田”国際公園都市は、わが国有数の高速道路網の結節点にあり、大阪、神戸の中心部に近接する大規模開発地である。関西圏においては、関西文化学術研究都市、関西国際空港関連地域整備と並ぶプロジェクトであり、今後の関西復興、活性化の重要な戦略的開発拠点としての発展が期待されている。(図-1)

“神戸三田”国際公園都市は8つのクラスターから成り、総面積2,016ha、計画人口14万人の開発規模を持ち、北端のテクノパークから、最南

1) 正会員 住宅・都市整備公団関西支社 北摂・北神開発事務所長 (〒669-13 三田市すずかけ台3丁目1番地)

2) 同 北神開発課 開発第一係長

3) 同 事業計画二課 計画第一係長

4) 正会員 神戸市 土木局 北神開発事務所長
(〒651-13 神戸市北区藤原台北町6丁目4-1)

5) 正会員 同 計画課長

6) 同 計画課 計画係長

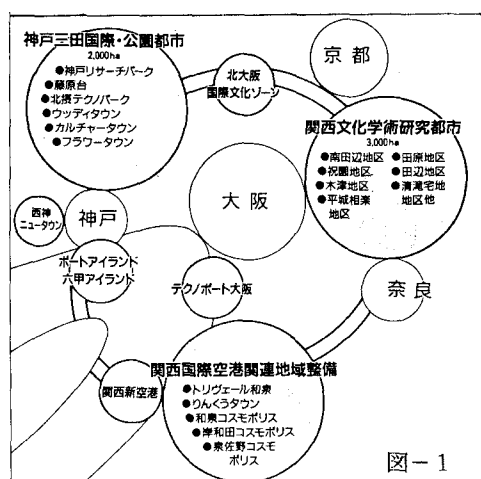


図-1

の藤原台まで、8つの個性的な街がそれぞれの特性と機能を発揮し、独立性を持ちながらも、有機的に結びつき、21世紀の複合機能都市としての計画が進行している。（表-1、図-2）

ここでは、人間居住の質の高い都市空間を中核に教育と文化が融合する生涯学習機能、西日本の産業活動が集結する情報・文化の発信機能、技術開発の拠点となる高度産業機能という4つの開発コンセプトのもとに21世紀のモデル都市を目指している。

人優先の居住空間づくりを進めるウッディタウン、フラワータウンに藤原台。学生や外国人たちとの交流を図るカルチャータウン。情報・文化の発信基地や高度な産業機能の集積を目指す神戸リサーチパーク。そして、未来指向型の工業都市に計画が進むテクノパークなど。

すでに、ウッディタウン、フラワータウン、藤原台にはすでに人口定着が進み、約2万3千人の生活が始まっている。さらに、テクノパークでも19社が操業している。

3. 神戸リサーチパークの概要

神戸リサーチパークは、神戸から北へ約20Km、大阪から北西へ約30Kmに位置している。施行者は住宅・都市整備公団であり、工事などは神戸市が

表-1 “神戸三田”国際公園都市の概要

事 項				開 発 手 法	事業主体	施行面積	事 業 期 間	計画人口	計画戸数
地 区 名									
“神戸三田”国際公園都市	三 田 市	ウッディタウン		新住宅市街地開発事業	公 団	ha 603	昭和48～ 平成11年度	人 48,000	戸 13,000
		フラワータウン		新住宅市街地開発事業	兵 庫 県	ha 339	昭和46～ 平成 6年度	人 34,000	戸 9,000
		カルチャータウン		新住宅市街地開発事業	兵 庫 県	ha 159	昭和46～ 平成 6年度	人 6,000	戸 1,600
		テクノパーク		工業団地造成事業	公 団	ha 136	昭和46～ 平成 4年度	人 -	戸 -
		小 計				ha 1,237		人 88,000	戸 23,600
	神 戸 市	藤 原		特定土地区画整理事業	公 団	ha 281	昭和52～ 平成 5年度	人 26,600	戸 6,950
		神戸リサーチ パーク	第1	特定土地区画整理事業	公 団	ha 221	昭和54～ 平成10年度	人 12,400	戸 3,400
			第2	土地区画整理事業	公 団	ha 277	昭和63～ 平成13年度	人 12,000	戸 3,300
			第3						
	小 計				ha 779		人 51,000	戸 13,650	
	計					ha 2,016		人 139,000	戸 37,250

委託を受け建設を進めている。（表－２）

神戸リサーチパークは、豊かな自然環境の中「住む」「働く」「学ぶ」「憩う」「交流する」など、多様な都市機能を備えた複合都市として建設が進められているが、次のような立地条件を有している。

①広域道路網の結節点である。

中国自動車道、山陽自動車道、舞鶴自動車道、六甲北有料道路、阪神高速北神戸線等が集中する「神戸の北の玄関口」であり、近畿における「西日本の玄関口」ともなる。

②空港へのアクセスが良い

大阪国際空港へ中国自動車道で直結している。

③大都市への至近距離にある。

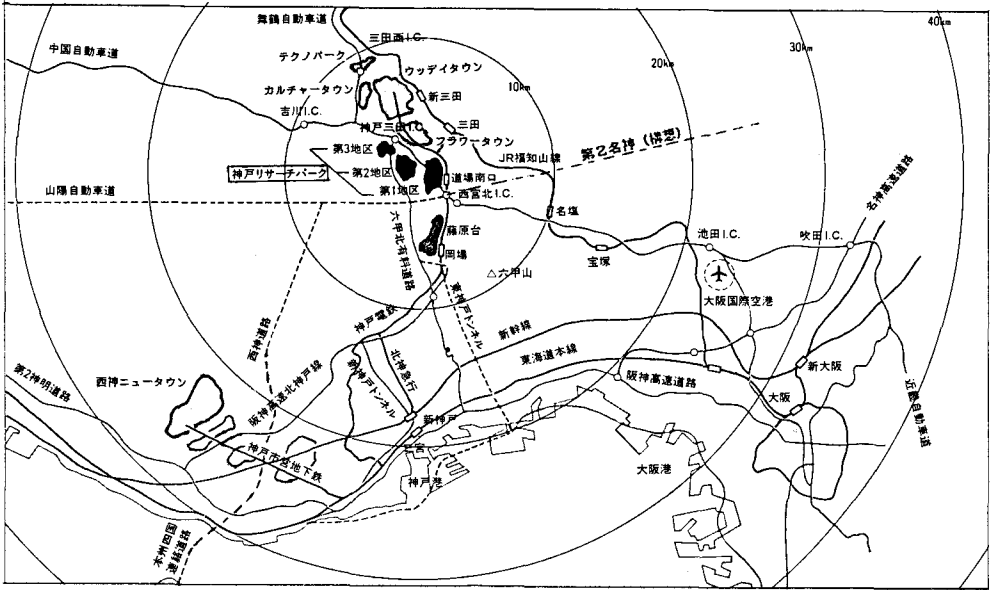
JＲ宝塚線で大阪中心部まで約５０分、神戸電鉄三田線、北神急行電鉄により神戸中心部まで約４０分である。

④質の高い住宅環境に恵まれている。

緑豊かな自然環境のなかに、住宅・業務・産業などの都市機能が一体的に整備され、職住近接の条件を有する。

表－２ 神戸リサーチパークの事業概要

		第 1 地 区	第 2 地 区	第 3 地 区	計
事 業 名 称		北神戸第一特定 土地区画整理事業	北神戸第二・第三 土地区画整理事業		
施 行 面 積		約221ha	約173ha	約104ha	約498ha
土 地 利 用	公共施設面積	約 62ha	約 41ha	約 14ha	約117ha
	公益的施設面積	約 19ha	約 8ha	約 1ha	約 28ha
	住 宅 用 地	約 71ha	約 66ha	－	約137ha
	誘致施設等面積	約 69ha	約 58ha	約 89ha	約216ha
計 画 人 口		12,400人 (3,400戸)	12,000人 (3,300戸)	－	24,400人 (6,700戸)
事 業 期 間		昭和54年度 ～平成10年度	昭和63年度～平成13年度		
施 行 者		住宅・都市整備公団（受託者：神戸市）			



図－２ 神戸リサーチパークの位置図

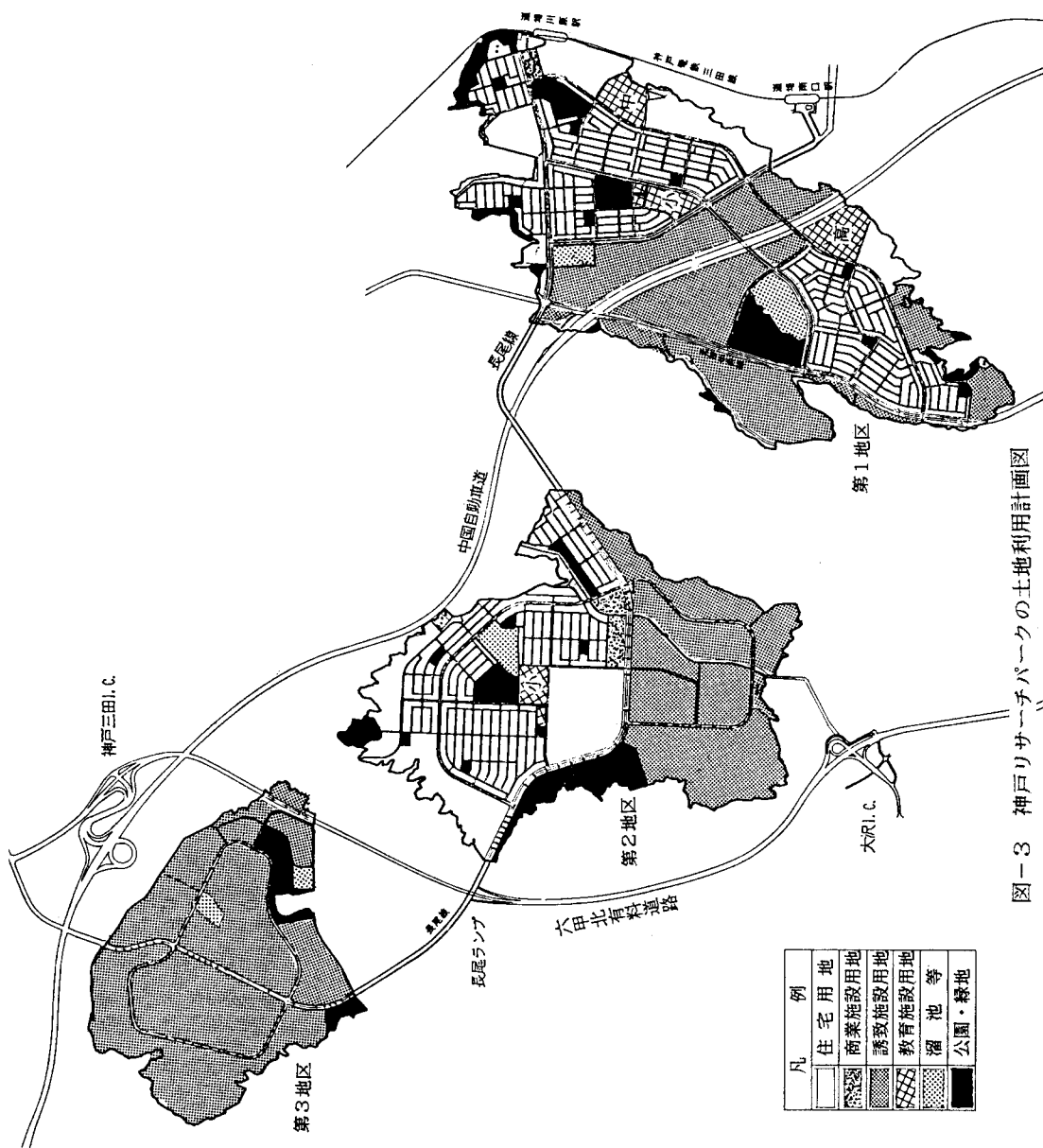


図-3 神戸リサーチパークの土地利用計画図

4. 神戸リサーチパークの位置づけ

(1) “神戸三田” 国際公園都市における位置づけ

“神戸三田” 国際公園都市の一環として開発が進んでいる神戸リサーチパークは、日本有数の高速道路である中国自動車道と山陽自動車道そして第2名神の一大結節点に位置しているという立地を生かし、情報文化の発信を目指すとともに、近未来指向の複合機能都市として展開することにより、“神戸三田” 国際公園都市を先導する拠点として、情報、文化、交流、流通機能並びに先端産業、研究開発・教育施設などの高次の都市機能を集積した近未来型都市を形成することが期待されている。(図-4)

(2) 神戸市における位置づけ

神戸市では、21世紀にむけて、人間生活のすべての機能を備えた「多機能複合都市」を目指し、臨海部では「ポートアイランド」「六甲アイランド」、西神地域では「西神ニュータウン」「須磨ニュータウン」「研究学園都市」、そして北神地域での「藤原台」「神戸リサーチパーク」におい

て、その街づくりを実施しつつある。

「第3次神戸市総合基本計画」(昭和61年2月)において、神戸リサーチパークの位置づけは以下のとおりである。

①神戸北地域の中心整備

衛星都心である藤原台とともに、神戸北地域のみならず周辺市町も含めた中心となるよう、商業、業務等の機能の集積を図る。

②住宅、住環境の整備

自然と田園に恵まれた豊かな環境を生かし、良質な住宅の供給と生活情報等を提供する情報通信基盤を整備する。

③産業用地の整備

中国や四国方面への近接性を活用して、新たな先端技術産業や研究開発施設の誘致を図るとともに、流通関係施設の整備を進める。

④教育、文化、福祉機能の整備

専門性の高い教育施設の誘致、CATV等の導入により産業機能との連携を図る。文化施設や福祉施設を整備し、地域活動等の拠点とする。

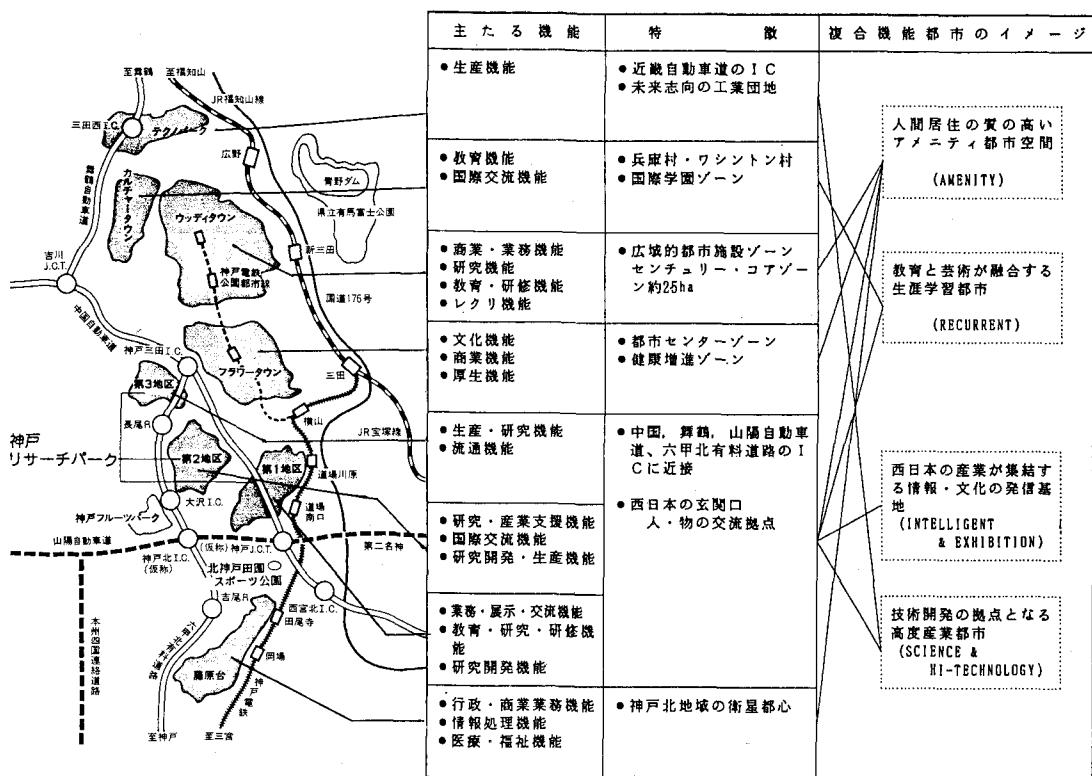


図-4 “神戸三田” 国際公園都市における機能配置

5. 神戸リサーチパークの開発コンセプト

(1) 神戸リサーチパークに期待される役割

① 高次の研究開発―産業複合体としての役割

研究開発機能に加えて先端産業の集積を図り、高次の研究開発―産業複合体として整備する。

② “神戸三田” 国際公園都市のシンボルゾーンとしての役割

住む、働く、学ぶ、憩う、交流するという複合的土地利用を計画することにより、“神戸三田” 国際公園都市及びその背後圏を代表し、牽引するまちとして機能することが求められる。

③ 情報・文化の発信拠点としての役割

内陸部の港（Inland Port）として情報・文化の発信基地を積極的に備えることにより、様々な産業交流や人々の交流が展開し、次代を先取りする生活・産業文化を創造する拠点として整備することが求められる。

④ 西神ニュータウンとの連携

神戸リサーチパークは、西神地域で立地が進むメカトロニクス、エレクトロニクスなどの先端産業に加えて、ヒューマンサイエンス産業やソフトエンジニアリング産業の集積、実践的な研究開発機能の誘致を図る。

⑤ 地区周辺の開発プロジェクトとの連携

武庫川の清流や有馬富士、北六甲の山々など自然環境に恵まれ、周辺には、神戸フルーツパークや北神戸田園スポーツ公園などが計画されているため、これらと融和、連携した開発が求められる。

(2) 神戸リサーチパークの開発コンセプト

以上の立地条件や期待される役割から、次のような開発コンセプトを考えている。（図-5）

① エキジビション・パーク

自立型都市の形成を目指し、リサーチパークに立地する研究、生産、流通機能を支援する業務・サービス・展示施設、産業交流・情報施設の誘致を図り、大阪、神戸はもとより広域圏からの人々が集まり交流する「新しい都市文化創造」拠点としての街づくりを目指す。

② サイエンス・パーク

精密機械、電気、化学などの生産施設、生物、生命関連先端産業、ヒューマンサイエンス産業、

ソフトエンジニアリング産業の集積とともに、研究開発企業の立ち上りを支援するインキュベータ等の機能の誘致を図り、今後の産業活動の先導的役割を担う高度技術産業の展開するまちを形成する。

③ アカデミー・パーク

研究・教育施設、セミナー村、企業研修センターなどの立地により、恵まれた自然環境の中で次代を担う新製品・新技術の開発、人材育成、技術交流が展開する街づくりを目指す。

④ ディストリビューション・パーク

広域物流、配送センターなどの施設をはじめ生産流通機能を融合した加工団地、展示、業務機能を備えた複合施設及びこれらの機能を支える情報センター、ヘリポート等の共同施設の誘致を図り、新しいタイプの流通業務団地を形成する。

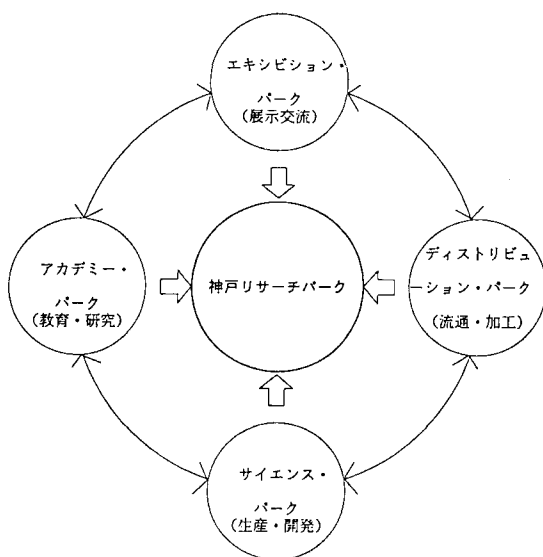


図-5 神戸リサーチパークの開発コンセプト

6. 神戸リサーチパークの誘致施設計画

(1) 3地区の整備方針とゾーニング

表-3 3地区の整備方針とゾーニング

地区	整備方針	機能
第1地区	鉄道駅への近接地であり、神戸リサーチパークの玄関口としての役割を担う立地にあることから、居住機能との調和を図りながら、広域圏からの来客を前提とした展示・交流機能や文化機能、業務・サービス機能、さらには教育・研究・研修機能を主体とした施設を集積させる	エキジビション・パーク
第2地区	第1地区と第2地区の中間ゾーンとして、研究・文化交流機能と居住機能との調和を図り、質の高い魅力ある街づくりを目指す。専門性や学際性の高い学術・研究施設並びに生産機能をも合わせもつ研究開発機能を集積させる。	アカデミー・パーク
第3地区	中国自動車道と六甲北有料道路が交わる神戸三田インターチェンジに隣接しており、広域道路網の結節点という利便性を生かし、生産、流通機能を主として施設の集積を図る。	サイエンス・パーク ディストリビューション・パーク

②誘致施設イメージ

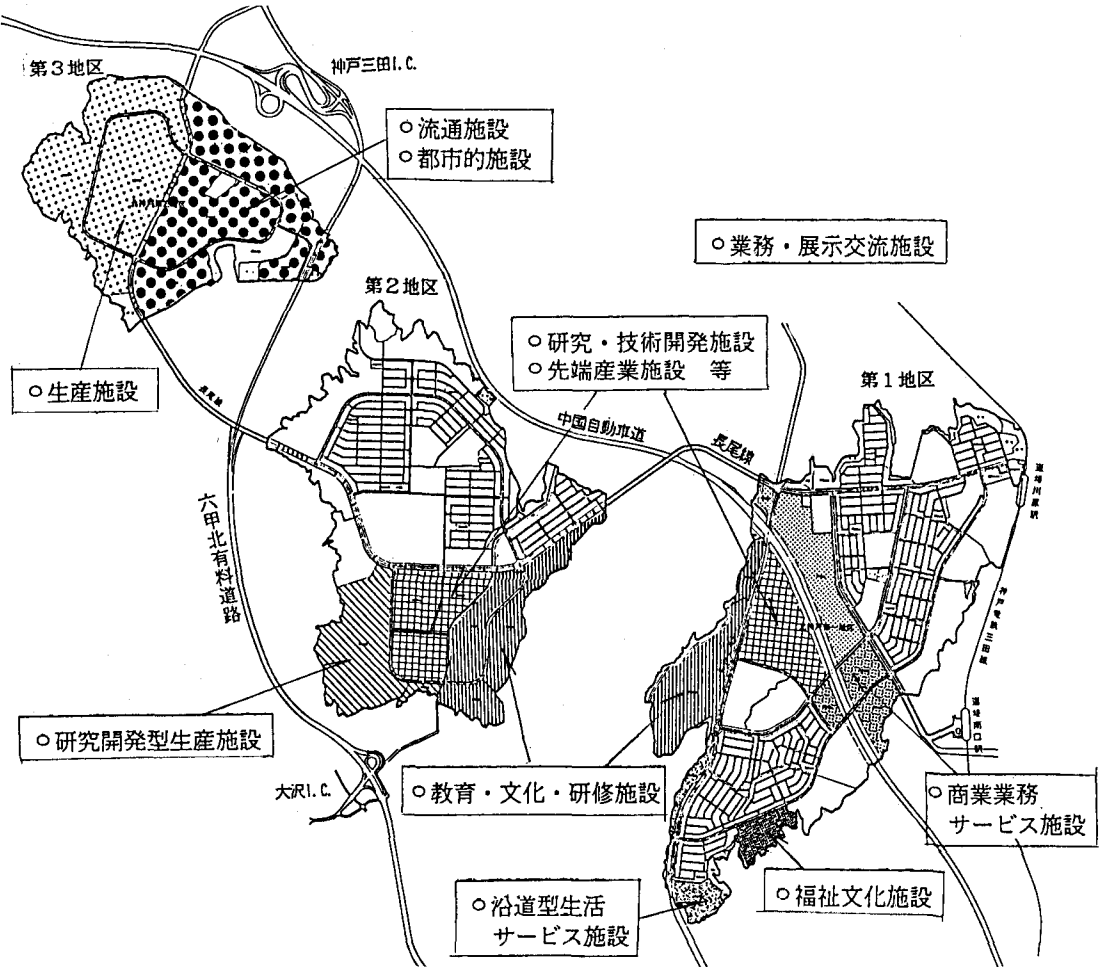


図-6 神戸リサーチパークの誘致施設イメージ

7. 事業スケジュール

神戸リサーチパークの第1地区については、ほぼ1次造成が終わり、平成3年春の街びらきに向けて、道路・公園の整備や宅地整備、神戸電鉄道場川原駅の改良工事が進められており、来春には約250戸の人居が予定されている。第2地区、第3地区についても、本格的造成工事に着手しており、早期街びらきに向けて努力している。（表-4、図-7）

表-4 事業スケジュール

地区名	昭和55年度	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度以降
第1地区	○	造	成	施設誘致 建設	工 事 操業		
第2地区		○	造	成		工 事	
第3地区					施設誘致 建設	操業	

また、誘致施設計画の具体化のため、本年7月に住宅・都市整備公団と神戸市とで、「神戸リサーチパーク企業誘致促進協議会」を設置し、企業誘致の促進を図っている。

8. おわりに

複合機能都市とは単に多様な施設があるというだけではなく、それぞれの施設、企業がまちづくりに貢献し、都市機能の一部を分担するようであればならない。自然環境を生かし、都市景観及び環境保

全への配慮、地域との交流も図られるような基盤整備並びに支援体制等の確立も検討していく必要がある。

来年春、北神戸に新しい街が誕生しようとしており、より良い街づくりの一つの事例として何らかの参考になれば幸いである。



図-7 神戸リサーチパークの完成予想図